

要請において回答を求められている（要請2）、3）に対する県の考え方は以下のとおりです。  
（県土整備部河川課、農林水産部水産振興課）

要請2)

魚類生態学者らから指摘された、県の主張する「流水型ダムなら環境影響が少ない」の欺瞞性について、説明責任を果たすこと。

県回答

最上小国川流域における環境に与える影響については、平成15年度より継続的に調査・検討を実施中です。

流水型ダムの工事中はもちろん完成後についても調査及び協議会を継続し、環境保全に十分配慮していきます。

[詳しくは「最上小国川ダムに関するQ&A」Q6へ](#)

要請 3)

流水型ダムの穴の閉塞問題の対処策への欺瞞性について説明責任を果たすこと。

県回答

小国川漁協との意見交換を踏まえ、穴づまり対策として、一つの対策だけでなく、より効果を発揮するよう以下の多重的な対策を実施することとしています。

以下の多重的な対策を実施する。

① 砂防堰堤の活用

- ・ 既設の砂防堰堤（流水型ダムより上流 100m 地点）を改良し流木捕捉工として活用する。

② 鋼製流木止めの設置

- ・ 流水型ダムより上流約 2km 地点へ流木捕捉工として新設する。

③ 仮締切堤の活用

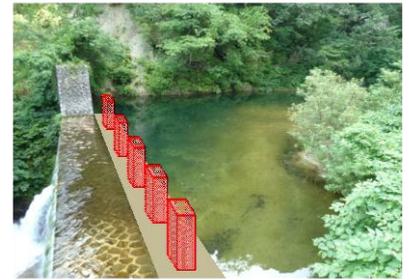
- ・ 本体工事で使用した仮締切堤に通水部（スリット）を設け、流木捕捉工として再活用する。

④ 鋼製スクリーンの設置

- ・ 穴の上流側に鋼製スクリーンを設置し、洪水時の流木等による閉塞を防御する。
- ・ 通常の流れは阻害しないようにスクリーン下部の水深 1 m 程度は常時開口状態とする。

⑤ 可動式穴づまり防止装置（維持管理板）の設置

- ・ 流木等が堆積した場合、また、万が一、穴が閉塞した場合、維持管理板を上げ、通水断面確保や堆積物を流下させる。



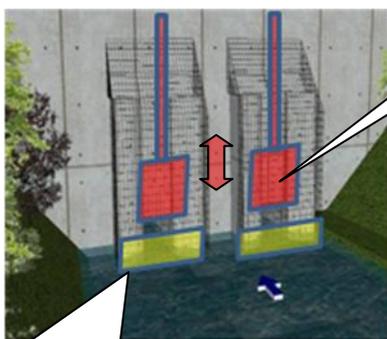
① 砂防堰堤の活用（イメージ）



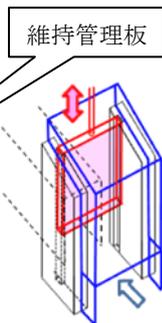
② 鋼製流木止め（事例）



③ 仮締切堤の活用（事例）

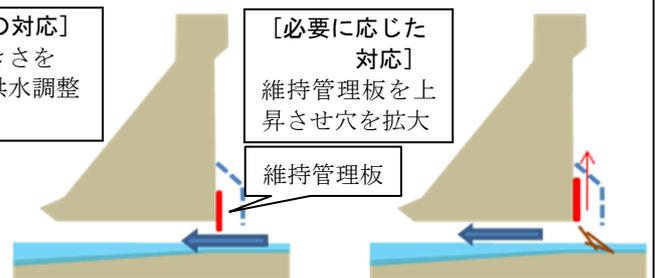


スクリーン下部は常時開口



維持管理板

[平時の対応]  
穴の大きさを  
固定し洪水調整



[必要に応じた  
対応]  
維持管理板を上  
昇させ穴を拡大

維持管理板

④鋼製スクリーン ⑤可動式穴づまり防止装置（イメージ）

## ⑥ 監視カメラの設置

- ・洪水後の流木や土石が溜まっている状況は監視カメラ及び職員の巡回により確認する。

## ⑦ 転流工の活用

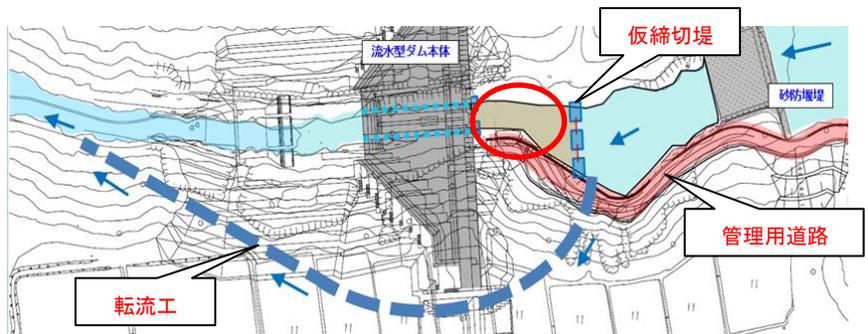
- ・前記③の仮締切堤(流木捕捉工)の通水部を締切り、転流工により河川を迂回させることで、穴上流部(図○区域)の流木等について、下流河川を濁すことなく、早急かつ確実な撤去を行う。

## ⑧ 管理用道路の設置

- ・堤体付近まで降りて行ける管理用道路を設置することで、重機による撤去作業を速やかに実施する。



⑥監視カメラ（事例）



⑦転流工の活用 ⑧管理用道路の設置（図）